

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02435

研究課題名(和文) 宗教の生態学 精神の比較存在論

研究課題名(英文) Ecology of Religion: Comparative Ontology of Mind

研究代表者

田辺 明生 (Tanabe, Akio)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30262215

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「宗教の生態学」というアプローチにより、自律的な主体がある教義を信じるという理解や、個別の宗教実践の描写をこえて、自然物・人工物・身体ネットワークからなる宗教空間に着目し、そのなかの宗教的な実践・経験・言説における身体と環境の相互作用に焦点をあてた。日印での共同フィールドワークを通じて、「諸宗教のおかれた自然的・人工的な環境は、無限の「実在」についての身体経験に影響し、それが習慣化され言説化されることにより、再帰的に環境に影響を与える」という仮説をめぐる議論を深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、生態学的アプローチを宗教研究に導入したことである。主体と環境の相互作用における自他の生成変容という「生」の普遍的な位相に宗教を位置付けたことは重要である。また、本研究は、生命のありかたそのものに関わる科学と統治のテクノロジーの現在の発展状況を視野におさめ、現代社会における宗教経験の、身体・情動的側面と生権力的な制度的側面との複雑なつながりを、総合的に明らかにしようとしたことに意義がある。社会的意義としては、宗教とはドグマの信仰であるとする一般的な理解を超えて、「身体と環境の相互作用」という、より普遍的な枠組から「宗教的なもの」の経験をとらえようとしたことであろう。

研究成果の概要(英文)：This study took an "ecology of religion" approach, transcending the understanding that autonomous subjects believe in certain doctrines or mere depictions of individual religious practices, to focus on religious spaces consisting of networks of things of nature, artefacts, and bodies, and on the interaction between bodies and environments in religious practices, experiences, and discourses within these spaces. The study was conducted through joint fieldwork in Japan and India. We were able to deepen our discussion on the hypothesis that "the natural and artificial environments in which religions are situated influence the physical experience of the infinite "reality" and recursively affect the formation of the environment as it becomes habitual and discursive".

研究分野：人類学

キーワード：宗教 生態学 比較 存在論 精神 インド 日本

1. 研究開始当初の背景

1) 宗教研究は、「宗教」概念がいかに言説的に構築されたか、を主に論じてきた。こうした研究は、宗教概念の脱構築には有効であったが、宗教が生にとってもつ意義をとらえる枠組を見失っていた。結果、「宗教学の死」が語られるに至っていた[磯前 2012]。

2) 現在必要なのは、人びとが宗教をいかに実践し、経験し、語るのかという、宗教現象そのものを体系的・総合的に理解するための枠組である。

2. 研究の目的

宗教への「生態学的アプローチ」(ギブソン 1985; Ingold 2000)によって、宗教理解の新たな枠組をつくる。それは、宗教とはある教義を信じることでありという理解や、単に個別の宗教実践を描写するのとは異なり、自然物・人工物・身体ネットワークからなる宗教空間に着目し、そのなかの身体と環境の相互作用に焦点をあてようとする新たな宗教人類学の試みである。

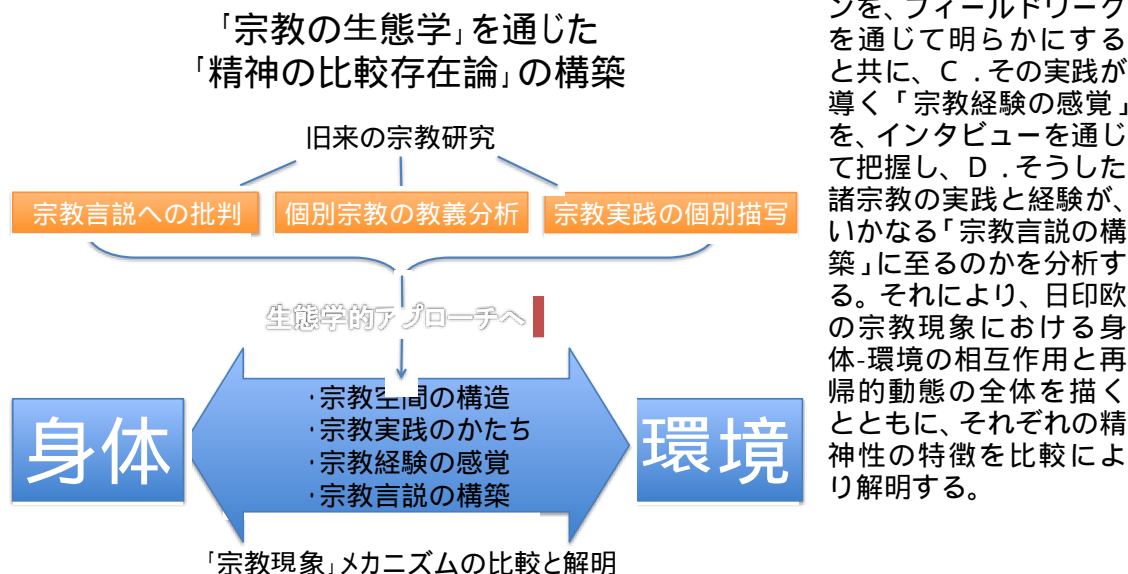
「精神」とは、ベイトソン(2000)に従えば、身体と環境の相互作用における一定のかたちやパターンのことである。宗教的な精神をもつ個体は、環境の無限の広がりを感じ、その経験を基礎として自らの生をかたちづくる(常田 2011)。つまり宗教的に生きるということは、無限の 実在 (神、仏、梵、空)に直接的に触れる経験を基礎として(ドゥルーズ 1992; 松嶋 2014; Mihara 2013)、その 実在 を個体の生に折りこみながら、「今・ここ」と無限の 実在 とを媒介しようとする不断の試みである(檜垣 2012; 田辺 2014)。これは宗教の「世俗世界性」(Viswanathan 1998)に基づき、 実在 との関係において、個体が今・この自己と世界を再構築する働きでもある(Csordas 1994)。本研究では、こうした精神の存在論を生態学的アプローチから解明することにより、宗教現象のメカニズムを明らかにしたい。

3. 研究の方法

本研究は、「宗教の生態学」を通じて、日印欧の「精神の比較存在論」を論じることを目的とする。宗教的なものの経験を可能にする身体-環境の相互作用はいかなるものか。そこにおける宗教の生態学的メカニズムはどのようなものか。

これらを解明するために、宗教的な規律・象徴・建築などの制度的環境と、宗教的な実践や経験をする身体との相互関係を精査する。私たちの仮説は、「諸宗教における制度的環境は、無限の 実在 についての身体経験に影響し、それが習慣化され言説化されることにより、再帰的に制度的環境に影響を与える」というものである。つまり宗教においても身体と環境は相互規定的だ。本研究では、神道、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教を取り扱うが、それぞれの宗教が自らの 実在 を「超越」とみるか「内在」とみるか、それを「全」とするか「空」とするかは、単に哲学・思想的な立場(認識論)の違いによるものではなく、宗教的なものの存在論、つまり身体と環境の相互作用における精神の存立構造の違いに関わるものであることを明らかにする。

具体的には、A. 「宗教空間の構造」を自然物・人工物・身体の配置に注意して客観的に描き出した上で、B. 「宗教実践のかたち」、すなわち身体が自らの環境に対して宗教的に働きかける実践のパターンを、フィールドワークを通じて明らかにすると共に、C. その実践が導く「宗教経験の感覚」を、インタビューを通じて把握し、D. そうした諸宗教の実践と経験が、いかなる「宗教言説の構築」に至るのかを分析する。それにより、日印欧の宗教現象における身体-環境の相互作用と再帰的動態の全体を描くとともに、それぞれの精神性の特徴を比較により解明する。



4. 研究成果

当初の計画では、日本、インド、ネパール、スペイン、イタリアなどでの共同フィールドワークを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延によって、その計画は大幅に縮小せざるを得なかった。また計画していた、在外の研究協力者の招聘も叶わなかった。

共同フィールドワークについては、高野山（2017年度）およびティルヴァンナーマライとプリー（インド、2018年度）また四国遍路（香川県、徳島県、2021年度）の三回を行なった。当初は日印欧（神道・仏教世界、ヒンドゥー教世界、キリスト教世界）の比較を、共同フィールドワークを通じて行う予定であったが、それはかなわなかった。代わりに、各専門地域を有する分担者間での議論と情報交換を綿密に行った。3回の共同フィールドワークの場では、インドおよび日本の宗教空間・実践の特質を現場から明らかにしようとする知的作業の中で、それぞれの地域の専門家から共通点や差異について指摘してもらうことによって、それぞれの宗教世界についての理解が深まった。

研究成果として、田辺（代表者）による英文モノグラフ、三原（分担者）、田辺（代表者）、常田（分担者）などによる解説文を加えた共訳書、その他、松嶋（分担者）や藤倉（分担者）も含めて、数多くの関連論文を発表した。

主な研究成果の理論的枠組は以下の通りである。

1) 宗教の言説批判から生態学的転回へ

昨今の宗教言説批判を超えて、生態学的アプローチを宗教研究に導入することを試みた。これまでの研究では、自然生態を主とする「信仰環境」が検討されたり（野本1990）、言説空間を考察する「信念の生態学」が提唱されたりしてきたが（浜本2007, 2008）、視野が限定的であった。本研究では、宗教現象における身体と環境の相互作用の全体を体系的に理論化する試みを行なった。これは言語論的転回を超えて、生命論を核とする生態学的転回を宗教研究に適用するものである（松嶋2014）。

2) 環境のアフォーダンスから、主体と環境の相互作用的な生成へ

J.J. Gibson(1979)のアフォーダンス論は、環境が主体に対して提供する行為可能性に着目し、心理と物質の区別を横断する意味や価値の位相が、身体-環境の関係のなかにあることを指摘した点で画期的な意義をもった。しかし、そこでの主体は、環境に内在する行為可能性を知覚するだけで、自己と世界を再構築する主体性はない。これを乗り越えるべく、本研究では、主体と環境の相互作用における自他の生成変容という「生」の主体的な位相に特に着目した。

3) 生態学的アプローチとポストセキュラリズム的視角の統合

宗教的な「生」とは、自己を超えた「実在」との関係のもとに自らの生のかたちをつくる過程である。一方ポストセキュラリズムは、宗教を彼岸にのみ関わるものとして理解するのではなく、「今・ここ」における主体構築と世界への働きかけを可能にするものとして捉える（Viswanathan 1998）。本研究は、生態学的アプローチに学びつつ、宗教の「世俗世界性」、つまり今・ここで自己と世界を再構築する自由の基盤としての宗教というポストセキュラリズム的視角を統合することを試みた。

4) 宗教現象の「情動と制度」をめぐる総合的理解へ

現代の人間が生きる身体-環境は、言語や制度に回収されない物質・精神的深みをもちつつ、同時に、生命の意味と力の産出に関わる生権力的制度とも深く関わる（檜垣2012）。本研究は、生命のありかたそのものに関わる科学と統治のテクノロジーの現在の発展状況を視野におさめ、現代社会における宗教経験の、身体・情動的側面と生権力的な制度的側面との複雑なつながりを、生命論的・生態学的な視野から、人類学・哲学・文学理論を総合して明らかにすることを試みた。

5) 人間の宗教的「生」の本質へ

本研究は、人間主体が、環境のネットワークのなかに分散していきながら、その主体の溶解するさきに経験する「宗教的なもの」に着目する。そして、そこで経験される無限の「実在」を自らの個体に折りこんで主体構築をなす人間の、「環境内存在」でありながら精神の自由をもつ宗教的「生」の本質に迫ることを試みた。

- Csordas, T. J. 1994. *The Sacred Self: A Cultural Phenomenology of Charismatic Healing*, Berkeley: University of California Press.
- Gibson, J.J. 1979. *The Ecological Approach to Visual Perception*. London: Houghton Mifflin.
- King, R. 1999. *Orientalism and Religion: Post-Colonial Theory, India and "The Mystic East"*. London: Routledge.
- Ingold, T. 2000. *The Perception of the Environment: Essays on Livelihood, Dwelling and Skill*. New York: Routledge.
- Masuzawa, T. 2005. *The Invention of World Religions: or, How European Universalism was Preserved in the Language of Pluralism*. Chicago: University of Chicago Press.
- Mihara, Y. 2013. "Reading T. S. Eliot Reading Spinoza", Ph.D. thesis submitted to Cornell University. 370p.
- Viswanathan, G. 1998. *Outside the Fold: Conversion, Modernity, and Belief*. Delhi: Oxford University Press.
- 磯前順一 2012年『宗教概念あるいは宗教学の死』東京大学出版会
- ギブソン, J.J. 1985年『生態学的視覚論—ヒトの知覚世界を探る』古崎敬訳 サイエンス社
- 田辺明生 2014年「現代インドにおける宗教と公共圏」 島蘭進・磯前順一編『宗教と公共空間』東京大学出版会
- ドゥルーズ, ジル 1992年『差異と反復』財津理訳 河出書房新社
- 常田夕美子 2011年『ポストコロニアルを生きる 現代インド女性の行為主体性』世界思想社
- 野本寛一 1990年『神と自然の景観論—信仰環境を読む』白水社
- 浜本満 2007年・2008年「信念と賭け: パスカールとジェイムズ」「進化ゲームと信念の生態学」(社会空間における信念の生態学試論 1・2)『九州大学大学院教育学研究紀要』10巻 23-41頁, 11巻 125-150頁
- 檜垣立哉 2012年『ヴィータ・テクニカー—生命と技術の哲学』青土社
- ベイトソン, グレゴリー 2000年『精神の生態学』佐藤良明訳 新思索社
- 松嶋健 2014年『プシコナウティカー—イタリア精神医療の人類学』世界思想社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 三原芳秋	4. 巻 1165号
2. 論文標題 宗教的なるもの の異相 ヴィシュワナートン『異議申し立てとしての宗教』補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 49-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三原芳秋	4. 巻 64巻8号
2. 論文標題 静かに走れ すみだ川 鮎川信夫とT. S. エリオット	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤倉達郎	4. 巻 67巻3号
2. 論文標題 ネパールの山村から日本ヘーライフヒストリーからの接近	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 50-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松嶋健	4. 巻 No.1
2. 論文標題 精神医療改革運動からテレストリアルケアをめぐる 政治 ヘーイタリアでバザーリアとコロナが教えてくれたこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医療	6. 最初と最後の頁 62-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 -
2. 論文標題 Antiracism and Spiritual Universalism: Japan, India, and the Development of Internationalism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Politika https://www.politika.io/index.php/en/article/antiracism-and-spiritual-universalism-japan-india-and-the-development-of-internationalism .	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 -
2. 論文標題 Antiracisme et "universalisme spirituel". Le developpement de l' internationalisme au Japon et en Inde.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Politika https://www.politika.io/index.php/fr/article/antiracisme-universalisme-spirituel-developpement-linternationalisme-au-japon-inde .	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三原芳秋	4. 巻 25巻
2. 論文標題 ilgda (読む)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gubohagbo (久保学報)	6. 最初と最後の頁 551-572頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tokita-Tanabe Yumiko	4. 巻 29
2. 論文標題 Reimagining familial relationships: intimate networks and kinship practices in Odisha, India	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary South Asia	6. 最初と最後の頁 66 ~ 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09584935.2021.1884657	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋健	4. 巻 増刊12号
2. 論文標題 主語的公共空間から述語的つながりの場へ ト라우マとケアをめぐる人類学から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 125-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋健	4. 巻 48巻10号
2. 論文標題 イタリアにおける医療崩壊と精神保健 コロナ危機が明らかにしたもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 117-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋健	4. 巻 100号
2. 論文標題 ニューノーマルの濁流に呑みこまれる前に為すべきこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育と文化	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 114
2. 論文標題 反人種差別と霊的普遍主義 - 日印ナショナリズムの交差と分岐	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/252457	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 Genealogies of the "Paika Rebellion": Heterogeneities and Linkages	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1479591420000157	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 -
2. 論文標題 第三章 グローバル市民社会 方法としての主体、可能性としての他者	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『われわれはどんな「世界」を生きているのか 来るべき人文学のために』	6. 最初と最後の頁 45-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 -
2. 論文標題 南アジアの歴史人類学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 190-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 1
2. 論文標題 生き延びてあることの了解不能性から、他者とのつながりの再構築へ----インド・パキスタン分離独立時の暴力の記憶と日常生活	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田中雅一・松嶋健編『トラウマ研究1 ト라우マを生きる』	6. 最初と最後の頁 495-520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 No.83
2. 論文標題 インド・オリッサ州におけるトライブとダリット マイノリティ集団間関係を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マイノリティ研究会ニュース	6. 最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋 健	4. 巻 1
2. 論文標題 トラウマと時間性 死者とともにある いま	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田中雅一・松嶋健編 『トラウマ研究1 ト라우マを生きる』	6. 最初と最後の頁 445-494
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiaki Mihara	4. 巻 40
2. 論文標題 Vico or Spinoza ? An Other Way of Looking at Theory, circa 1983	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ex-position	6. 最初と最後の頁 7-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6153/EXP.201812_(40).0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三原 芳秋	4. 巻 51
2. 論文標題 「国民文学」再考 「文学理論」の普遍性をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 講演・討議の記録 三原芳秋(講演)金東植・尹大石(討議) 『韓國學研究』	6. 最初と最後の頁 637-683
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三原 芳秋	4. 巻 -
2. 論文標題 文献学への回帰	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編 『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 -
2. 論文標題 Spirituality as the Source of Human Creativity: Insights from India.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality.	6. 最初と最後の頁 179-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 -
2. 論文標題 幸福追求の支えとしてのダルマ--秩序の再構築過程に注目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 変貌と伝統の現代インド アンバードカルと再定義されるダルマ	6. 最初と最後の頁 255-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋 健	4. 巻 38 (01)
2. 論文標題 喚起する言葉 人類学的記述をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤倉 達郎	4. 巻 -
2. 論文標題 何に包摂されるのか - ポスト紛争期のネパールにおけるマデシとタルーの民族自治要求運動をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相 言説政治・社会实践・生活世界	6. 最初と最後の頁 233-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三原 芳秋	4. 巻 39 (3)
2. 論文標題 Theoretical Studies in Literature and Art	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Invention of "Japanese" Literature in Colonial Korea, or How Shame-less Literary Engagement Could be under Colonial Condition	6. 最初と最後の頁 108-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Yoshiaki Mihara
2. 発表標題 Whose America? Our America! --- Ayukawa Nobuo and the (Lost) Origin of Postwar Japanese Poetry
3. 学会等名 Cornell EAP Seminar (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松嶋健
2. 発表標題 コスモポリティクスとしての民族精神医学
3. 学会等名 第28回多文化間精神医学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India
3. 学会等名 International Conference on 'Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere' (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三原芳秋
2. 発表標題 ポスト世俗化時代の宗教を構想する
3. 学会等名 京都フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuro FUJIKURA
2. 発表標題 "World Solidarities" After the Movement for Autonomous State: The Tharu Indigenous Struggles and the Permanent Democratization in Nepal
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuro FUJIKURA
2. 発表標題 Living in a world without autonomous state: Tharu activists' engagements with new local governance in Nepal
3. 学会等名 49th Annual conference on south Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuro FUJIKURA
2. 発表標題 “ Re-articulating the demos: The Tharu experiments with self-governance in post-conflict Nepal ”
3. 学会等名 Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study Programme for Third Workshop (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India
3. 学会等名 International Workshop : Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Recent Socio-economic Changes in Niyangiri Region in Odisha, India: With Special Attention to Scheduled Tribes and Scheduled Castes
3. 学会等名 International Workshop : New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 多様性社会としてのインド - 南アジア型発展径路を考える
3. 学会等名 シンポジウム「インドの価値観と社会構造 - 日本と西洋との比較研究」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 部族民と不可触民 インドにおける差別の諸形態
3. 学会等名 人文研アカデミー2018「人種神話を解体する 可視性と不可視性のはざまで (In) Visibility」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuro Fujikura
2. 発表標題 State Restructuring, Communities and the Practices of Mediation in Nepal and Beyond
3. 学会等名 Department of Sociology, Sikkim University; Department of Political Science, Himachal Pradesh University (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiaki Mihara
2. 発表標題 Feature Topic: Literary Criticism Scene of the 1980s, Revisited
3. 学会等名 Ex-position Number40・Desember2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yumiko Tokita-Tanabe
2. 発表標題 A house of one's own: Fiction of new kinship narratives in emerging opportunities for women in rurban Odisha
3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connection and Diversion of Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries
3. 学会等名 International Seminar on Race and Racism
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 Is there a South Asian path of development? Comparative attempts on shapes of Asia
3. 学会等名 Shaping Asia/s Connectivities, Comparisons, Collaborations (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 Forms of Racialization in Odisha, India: Projecting Anxieties of Globalization onto the Marginalized
3. 学会等名 116th Annual Meeting of American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 Genealogies of 'Paika Rebellion': Heterogeneities and Linkages
3. 学会等名 Invited Key Speaker at National History Symposium 'Paika Rebellion: A Forgotten Era of Indian Freedom Struggle' (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 Vernacular democracy and politics of relationships: A subalternate perspective on contemporary India
3. 学会等名 Department of Political Science
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤倉 達郎
2. 発表標題 Communities and Mediation in Post-conflict Nepal.
3. 学会等名 Symposium on Peaceful Development in South Asia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松嶋 健
2. 発表標題 これは「精神障害者の就労支援」ではない イタリアの地域精神保健から「働くこと」を考える
3. 学会等名 精神障害者の就労支援（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松嶋 健
2. 発表標題 「人間を中心に置く社会」は可能か イタリア バザーリア法が問うもの
3. 学会等名 おかやまUFE（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松嶋 健
2. 発表標題 精神医療とデモクラシー イタリア地域精神保健からの声
3. 学会等名 吉備国際大学国際講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三原 芳秋
2. 発表標題 「国民文学」再考 「文学理論」の普遍性をめぐって
3. 学会等名 ソウル大学人文学研究院コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三原 芳秋
2. 発表標題 文学理論の生態学的転回とは何か？
3. 学会等名 ソウル大学比較文学研究室コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 常田 夕美子
2. 発表標題 'Affection is something heavenly': Lived relations of kinship and family in rurban areas of Odisha, India.
3. 学会等名 Examining the 'New' in Kinship and Family in South Asia
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 364
3. 書名 Caste and Equality in India: A Historical Anthropology of Diverse Society and Vernacular Democracy	

1. 著者名 田辺明生・竹沢康子・成田龍一 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 422
3. 書名 環太平洋地域の移動と人種 - 統治から管理へ、遭遇から連帯へ	

1. 著者名 三原芳秋ほか編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 276
3. 書名 クリティカル・ワード 文学理論	

1. 著者名 田中雅一・松嶋健 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 593
3. 書名 トラウマを研究する - ト라우マ研究2	

1. 著者名 松嶋健、松村圭一郎・中川理・石井美保 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 215
3. 書名 文化人類学の思考法	

1. 著者名 松嶋健	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 64
3. 書名 「片隅の世界」からつむがれる教育と研究	

1. 著者名 ゴウリ・ヴィシュワナートン著 三原芳秋編訳、田辺明生、常田夕美子、新部亨子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 464
3. 書名 『異議申し立てとしての宗教』	

1. 著者名 田中 雅一、松嶋 健(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 651
3. 書名 トラウマを生きる - ト라우マ研究 1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三原 芳秋 (Mihara Yoshiaki) (10323560)	一橋大学・大学院言語社会研究科・教授 (12613)	
研究分担者	常田 夕美子 (Tokita Yumiko) (30452444)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・外来研究員 (64401)	
研究分担者	松嶋 健 (Matsushima Takeshi) (40580882)	広島大学・人間社会科学研究科(社)・教授 (15401)	
研究分担者	藤倉 達郎 (Fujikura Tatsuro) (80419449)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関